

# シュロダー グローバル市場見通し

マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

(2017年3月作成)




株 式	国 債	社 債	コモディティ（商品先物）
			
<p>堅調な経済活動を示す指標に加えて、米連邦準備制度理事会（FRB）が米国経済は緩やかな拡大が続くと自信を示したことや、財政政策の拡大などを背景に、株式市場を取り巻く環境は引き続き良好と考えます。</p>	<p>欧州地域の政治リスクには引き続き注視しつつ、先進国に比べて現地通貨建ての新興国国債市場に投資妙味があると見ています。</p>	<p>社債の信用スプレッドは安定的に推移していますが、バリュエーションの観点では割高感が強まっていると考えます。</p>	<p>一部のコモディティで需給改善の兆しがみられることから、今後コモディティ市場は全般的に価格の上振れが期待されます。</p>

資産クラス	分類	見通し
株 式	米国	 <p>米国経済が拡大傾向にある中、米国内の主要経済指標も良好な内容を示しています。ただし、米ドルや長期金利の上昇は懸念材料と言えます。</p>
	欧州	 <p>欧州地域の政治リスクを背景に、短期的な先行き見通しには課題が残りますが、中期的には企業業績、景気回復などが株式市場の上昇を後押しすると考えます。</p>
	日本	 <p>円安や日銀の金融緩和政策を背景に、日本国内の景気に回復の兆しがみられる点を評価します。</p>
	アジア太平洋 (除く日本)	 <p>長期金利の上昇の影響を考慮し、香港およびシンガポールの株式市場の見通しを弱気としました。一方、主要経済指標は弱いながらも、コモディティ市場の上昇基調を受けて、オーストラリア株式市場に対して中立の見通しを維持しています。</p>
	新興国	 <p>新興国市場の経済見通しに回復がみられるものの、長期金利や米ドルの上昇、貿易活動の停滞などが新興国株式市場の下押し要因になる可能性があります。</p>

# シュロダー グローバル市場見通し




(2017年3月作成)

資産クラス	分類	見通し
国債	米国	 財政政策の拡大、世界的な期待インフレ率の上昇は米国国債の懸念材料と考えます。
	欧州 (ドイツ国債)	 ↓ バリュエーションの観点で割高感がみられる中、欧州中央銀行（ECB）が金融緩和政策を継続しつつも量的金融緩和における国債の購入額を今後減額することを鑑み、欧州（ドイツ）国債市場の見通しを弱気に引き下げました。
	新興国 (米ドル建て)	 新興国の景気や市場モメンタムは回復傾向にあるものの、バリュエーションの観点で相対的に投資妙味が薄いと考えます。
	新興国 (現地通貨建て)	 ↓ 引き続き他地域に比べてインフレが抑制されていることやバリュエーションの観点で相対的に魅力的であると考えます。ただし、足元の市場の上昇局面を受けて、現地通貨建て新興国国債市場の見通しをやや強気としました。
投資適格社債	米国	 過去の長期的な平均水準と比較してバリュエーションの観点で割高感がみられる中、FRBによる追加利上げや、トランプ政権のリフレーション政策が期待外れとなるリスクを考慮し、米国投資適格社債市場に対して弱気の見通しを維持しています。
	欧州	 欧州地域の政治リスクを受けて変動相場が予想されることや、過去の水準と比較してバリュエーションの観点で割高感がみられることから、欧州投資適格社債市場に対してやや弱気の見通しを維持しています。
ハイイールド社債	米国	 米国経済の拡大を受けて信用スプレッドが縮小傾向にあり、バリュエーションの観点で割高であると考えます。景気回復基調が期待外れに終わった場合、信用スプレッドの拡大につながる可能性が懸念されます。
	欧州	 バリュエーションの観点で割高感がみられるものの、堅調な欧州経済が引き続き市場を下支えしていくと考えます。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 ↑ 石油輸出国機構（OPEC）が合意した減産により、足元の原油価格の水準は維持されると考え、エネルギー価格の見通しをやや強気に引き上げました。
	金	 主要国のリフレーション政策への期待感から、実質金利が上昇傾向にありますが、実体経済の回復が確認できるまで、金価格に対して中立の見通しを維持しています。
	産業用金属	 ↑ 年内にも供給の減少が予想されます。今後世界的に景気回復基調が続く、かつ産業用金属の供給が適度に抑制された場合、足元の価格水準は維持されることが考えます。

# シュロージャー グローバル市場見通し

(2017年3月作成)

資産クラス	分類	見通し	
通貨	米ドル	 ↓	米国以外の地域でも景気回復が見え始める中、トランプ政権の財政政策が期待外れに終わる可能性も残っているため、米ドルの見通しを中立に引き下げました。
	ユーロ		欧州地域の政治リスクが経済成長やインフレ期待に影を落とす中、ECBは金融緩和策を継続するとみられることから、通貨ユーロに対してやや弱気の見通しを維持しています。
	日本円		景気に回復の兆しがみられる中、日銀はマイナス金利政策を維持していることを受けて、円は今後もレンジ内で推移すると予想します。

出所：シュロージャー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレーション・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

**【本資料に関するご留意事項】** 本資料は、情報提供を目的として、シュロージャー・インベストメント・マネジメント株式会社が作成したものであり、いかなる有価証券の売買の申し込み、その他勧誘を目的とするものではありません。本資料は法令に基づく開示書類ではありません。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果を示唆、保証あるいは約束するものではありません。本資料中にシュロージャーのコメントが含まれる場合、かかるコメントはシュロージャー独自のものであり、必ずしも一般的なものであるとは限りません。また、本資料中のシュロージャーのコメントは、当該コメントを提供した本人もしくは当該運用チーム等のコメントであり、他のシュロージャーの資料等に含まれるコメントと必ずしも一致しません。本資料に見通しや分析結果等が含まれる場合、当該見通しや分析結果等は、作成時点の考えに基づくものであり、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。またこれらは将来の投資成果を示唆、保証あるいは約束するものではありません。シュロージャー/Schroders とは、シュロージャー-plc およびシュロージャー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。